令和7年度「特色ある学校づくり対策事業」

佐世保市立早岐小学校

創　立　明治7年（149年目）
所在地　佐世保市早岐2丁目32番12号
校　長　岩田 美輝
児童数　598名　学級数 25学級
（R6年 5.1現在）

つながる心をもち 夢に向かってがんばる子ども
～ 自ら学び かかわり きたえる児童の育成を通して ～

目　的

（1）生きて働く「知識・技能」，未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」，学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の育成を意識した教育課程を編成し，子どもたちの資質・能力の向上を目指す。
（2）地域とともに歩む学校づくりに沿った教育課程を実施し，子どもたちの地域への理解を深めるため，地域の教育力を活用した「ふるさと教育」の実践を図る。
（3）潤いのある教育環境と温かみのある人間関係の醸成に取り組み，心豊かな児童が輝く学校づくりを図る。

運　営

佐世保の東の玄関口として栄えた歴史ある早岐の街、そして豊かな自然。このすばらしい故郷の資源は、子どもたちの学びを深める最高の教材である。本校では、地域と連携した教育活動を通して、夢に向かって力強く歩む子どもたちの育成を目指している。 本年度も、教育目標である「つながる心をもち夢に向かってがんばる子どもの育成」を主題に掲げ、「自ら学び かかわり きたえる児童の育成」を合言葉に、日々の教育活動を充実させている。早岐ならではの地域教材を生かし、子どもたちの「知りたい」「やってみたい」という意欲を大切にしながら、主体的に学ぶ姿勢を育み、未来の夢へとつなげていっている。

活動の実際

①栽培活動

四季折々の花や野菜を育てる活動を通じ、子どもたちは生命の力強さと尊さを学ぶことができた。自らの手で育てたものを収穫する喜びは、自然や生き物への深い愛情へとつながった。今年度の学校評価では、「生命を大切にしている」という項目で、児童 3.8、保護者 3.7 という非常に高い評価を得ることができた。

②教材開発・学力向上

月曜日の昼休み明けを「国語・読書・漢字タイム」として継続し、読む・書く力の土台作りを行った。準会場として実施している「漢字検定」への挑戦は、子どもたちが目標をもって学習に取り組む大きな原動力となった。また、教職員も「わかりやすい授業」を目指し、日々研究を重ねた。今年は特に教職員の ICT 活用能力の向上に力を入れ、生成 AI や Canva の研修の現職教育を実施した。その結果、６年生が修学旅行のしおりを Canva で作成するなど、子どもたちの表現の幅が広がった。こうした一歩一歩の積み重ねが、学校評価（わかりやすい授業の工夫）における 3.5 ポイントという安定した評価に繋がっている。

③福祉学習

「誰もが幸せに暮らせる社会へ」。４年生は社会福祉協議会の皆様の協力のもと、福祉学習に取り組んだ。ゲストティーチャーとしてお越しいただいた障害のある方々の体験談は、子どもたちの心に強く響き、街の中にある「バリア」とその解消の必要性を真剣に考えるきっかけとなった。車いす・アイマスク体験では、相手の立場を想像して行動することの難しさと大切さを肌で感じ、思いやりの輪を広げる一歩を踏み出すことができた。

④ふるさと教育

３年生は総合的な学習の時間に、自分たちの住む町の魅力を再発見する「早岐の自慢を探そう」に取り組んだ。早岐瀬戸の学習では、九十九島ビジターセンターの方から生き物の不思議を教わり、身近な海の豊かさに驚きの声を上げていた。「まちづくり出前講座」では水産業や化石について専門的なお話を伺い、早岐神社などの史跡巡りでは、地域の歩んできた歴史に直接触れることで、子どもたちの探究心はさらに高まった。これらの体験を通じ、早岐のよさを肌で感じ、ふるさとを愛する心が大きく育った。

⑤ちゃんふれあい・保幼小連携事業

早岐保育所と連携し、５年生が「あかちゃんふれあい事業」を行った。小さな赤ちゃんを前に、子どもたちは最初こそ緊張気味であったが、優しく触れたり抱っこを経験したりする中で、自然と穏やかで優しい表情に変わっていった。この活動を通して、生命の尊さを学ぶだけでなく、「自分もこうして大切に育てられたんだ」という家族への感謝の気持ちを再確認する機会となった。

保幼小連携事業では、早岐幼稚園へ出向き、いもさしや七夕会、ひな祭り会に参加をした。２月には、近隣の幼稚園、保育所を招き、ランドセル体験や給食準備の見学等を行った。関わりを通して、相手を思いやる気持ちやコミュニケーション能力を高めることができた。

⑥環境学習

「ふるさと佐世保の豊かな自然を未来へ」。そのような願いを込めて、外部施設と連携した環境学習を行った。九十九島ビジターセンターと連携した学習では、美しい海を脅かす「海洋ごみ」の現状について学んだ。させぼエコラボとの学習では、日々の食卓から考える「食品ロス」について深く考えた。学習を通して、「自分にできることは何か」という問いを抱き、自らの生活習慣を見つめ直し、自然を愛し守ろうとする意識が育った。

⑦キャリア教育

最高学年として、自らの生き方を見つめるキャリア教育に取り組んだ。「着付け教室」では、地域の方々の丁寧な指導のもと、浴衣の着付けに挑戦した。慣れない手つきながらも、背筋が伸びるような和装の魅力を肌で感じ、日本の伝統文化を大切に思う気持ちが芽生えた。また、男女共同参画をテーマにした出前講座では、「自分らしく生きる」ことについて考えた。性別という枠組みを超え、一人一人が自らの可能性を広げていく大切さを学ぶ、貴重な時間となった。